

〈芸術〉



音楽科



図画工作科

美術科



家庭科

技術・家庭科



芸術系教科実践事例集

1 芸術系教科における深い学び

【音楽科】

音や音楽と出会う場面を大切にし、主体的・協働的に学習に取り組み、表現したり、他者と共有共感したりする学び

【図画工作科／美術科】

主体的に学ぶ意欲を高め、表現の能力と鑑賞の能力を、相互に関連して働くようとする学び

【家庭科／技術・家庭科】

生活の中から問題を見出して、課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したり、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力を身に付ける学び

2 「深い学び」を目指すためのポイント

① 子供が思考できる教科の教材化、発問

基礎的・基本的な知識を着実に習得しながら、既存の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会におけるさまざまな場面で活用できる概念としていくことが大切である。

また、それには「本質的な問い合わせ」の設定が重要である。一問一答で答えられるものではなく、題材全体に関わる「概念的な問い合わせ」や、教科の「見方・考え方」を働かせた教科の本質に関わる「問い合わせ」により、子供たちが「素朴な理解」から、教科の本質に関わる「洗練された理解」に到達したとすれば、それは「深い学び」の実現だといえる。

② 目指す児童・生徒の姿

- ・表現に必要な技能を身に付けている児童・生徒
- ・人やものと関わりながら、自分らしく創意工夫して表現する児童・生徒

3 深い学びを実現するための学習の流れとＩＣＴ活用例

○著名な作家の作品の歴史や背景を調べたり、題材のアイディアスケッチの参考資料とするためにデジタルコンテンツを活用したりする。

○児童・生徒や著名な作家の作品の鑑賞活動において、作品や空間を共有するために書画カメラやプレゼンテーションソフトを活用する。

○創作活動や、作品の感想や意見を共有する鑑賞活動においてロイロノートを活用する。

○風景写真や教材となるものを撮影し、資料するためにタブレットPCを活用する。

○課題や作業手順を視覚化し提示するためには書画カメラを活用する。

○プログラミング学習を実践する。



第5学年 図画工作科学習指導案

1 単元名

コロコロガーレ

2 単元計画

時	1	2・3・4・5 (本時)・6	7
ねらい	でかい	ひろがり	ふりかえり
学習内容	○参考作品のビー玉が転がる様子を見て、その仕組みや作品づくりに興味をもつ。	○コースの構造の基本となる形を紙の性質を考えながらつくる。 ○紙を折ったり貼ったりして様々な形のコースをつくり、組み合わせて構成する。	○自分と友人の作品を交換して遊び、よさを認め合う。
ICT	・参考作品の紹介。 	・面白いアイディア児童の作品を動画に撮り紹介。 	

3 本時 (7時間扱いの5時間目)

(1) ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動			よさを共有する	
タブレット PC				

(2) 展開

学習活動	・指導上のポイント ★評価
1 学習内容の確認をする。 ・本時の学習内容を知り、見通しをもつ。	
	ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みを考えよう。
2 様々な転がる仕組みを考え、材料の扱いや接着を工夫し、丈夫な構造となるようにつくる。	・動画視聴をしたり、児童の作品を紹介したりすることでコース作りのイメージを膨らませる。
3 友達の作品を参考にして、自分の作品にも活かしてコースづくりを進める。	・指導者のタブレットPCで面白いコースを作った児童の作品を撮り、全体に紹介して共有する。 <問い合わせ>
4 学習のまとめをする。 ・何人か途中の作品を鑑賞する。	★ビー玉が転がる仕組みを使った楽しい転がり方や仕組みを考えている。
5 片付けをする。	・グループで協力して片付けるようにする。

第9学年 美術科学習指導案

1 題材名

透視図法を用いた「私の心の中の世界」

2 学習計画

時	1	2~14	15 (本時)
ね ら い	○自分の気持ちを表現主題とすることで自己理解を深める。 ○自分の表現意図に合う技法や配色を創意工夫し表現する。		○造形的なよさや美しさを感じ取り、自分の思いや考えをもって味わう。
学 習 内 容	○卒業生の作品を鑑賞し、作者の表現したかったものについて考える。 ○題材のねらい、制作の手順や要点を理解する。	○透視図法の基本をワークシートで練習し身に付ける。 ○テーマを決めて構想を練る。アイディアスケッチを重ねる。 ○テーマを基に画面構成を工夫し、ポスターカラーで彩色して仕上げる。 ○完成した自作品について、題名と解説や感想をワークシートに記入する。	○相互鑑賞する。
I C T	・プレゼンテーションソフト 	・プレゼンテーションソフト ・書画カメラ ・デジタルコンテンツの活用  	・プレゼンテーションソフト 

3 本時 (15時間扱いの15時間目)

(1) ICT活用

学習場面	課題設定	個の思考	思考の共有	問い合わせ
学習活動	興味関心を高める		互いの考えを比較する よさを共有する	
タブレット PC				

(2) 展開

学習内容・活動	・指導のポイント ★評価
1 学習内容の確認	・ICTの準備 (ICTの不調があった場合の手立てを考えておく)
2 クラス全体で鑑賞	・鑑賞活動に意欲的に取り組める雰囲気をつくる。 ・プレゼンテーションソフトを用い、プロジェクターでスクリーンに映し出し、鑑賞させる。 ★自分の考えが伝わるように発表しようとしている。
①作者、題名、解説は授業者が発表し、その後作品を映し出す。感想は作者本人に発言させる。 ②授業者がくじを引き、それにより指名された人は、その作品への感想を発表する。 ③①～②の行程をクラス人数分、繰り返す。	★自分の見方で鑑賞し発言しようとしている。
3 学習のまとめ	★造形的なよさや工夫を味わっている。
・本時の感想を鑑賞シートへ記入する。	